

謹賀新年

旧年中は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます
新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます
本年も何卒よろしく願い申し上げます

職員一同

各診療科よりご挨拶

循環器内科 主任部長 村岡 裕司

新年あけましておめでとうございます。

昨年は早春から始まった新型コロナに関する混乱で終始した感が否めません。その渦中に平素と変わらずご厚意をいただき連携を深めていただきました先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りまして心より御礼を申し上げます。

我々循環器内科の領域でも少なからず新型コロナの影響があり、人的交流や教育を提供する場の制限により新しい治療の導入が制限されたり、学会や研究会による学術的発展にも制約がかかってしまいます。オンラインという形態が俄かに一般的となり、確かに助かる部分も多いのですが、どこかで物足りなさを禁じ得ないのが正直なところ です。

地域の先生方との交流に関しましても、なかなか直接お会いしてお話しさせていただくことが叶わず失礼申し上げておりますと同時に寂しく感じております。

さて、新型コロナ感染症の状況に関わることなく心臓病は待たなしで発生してきます。土谷総合病院循環器内科と致しましては、救急を要する患者さんの受け入れに従来どおり滞りなく対応できるよう全力を注いでいく所存です。

入院治療の実績においては、お陰様で大きな治療症例数の減少なく、治療水準や成績も従来に勝るものを維持しております。不整脈、虚血性心疾患、ストラクチャー（TAVIなど）それぞれの領域で円熟した状況であり、安定した治療実績を提供できると思っております。状況を見据えながら、さらに新しい治療を組み入れて、先生方、患者さんのご期待に添えますように努力して参りたいと思います。

例年に増して先生方におかれましてはご自愛専一にお過ごしいただきまして、本年も当院循環器内科をどうぞよろしくお願い申し上げます。

■小児科

部長 田原 昌博

新年あけましておめでとうございます。

平素より多くの患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。

土谷総合病院小児科は、小児循環器診療と新生児診療を専門にしており、日本小児循環器学会専門医制度修練施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設、胎児心臓超音波検査専門施設、経皮的動脈閉鎖術の施行認定施設、地域周産期母子医療センターとして、「愛のある医療」をモットーに日々の診療に当たっています。

近年、胎児期からの心疾患のスクリーニング・診断が普及してきており、当科でも母体を紹介して頂き、年間70～100件の胎児心エコー※を施行しています。

心臓病を出生前診断した場合には、胎児期から両親にその病態や治療方針について説明を行い、産科と小児科が連携して出生前管理を行い、必要であれば分娩にも小児科医が立ち合い、出生直後から迅速な治療を開始します。

胎児診断に基づく医療は、単に胎児診断を行うだけではなく、より最善の医療を受けて頂くことを提案する医療であり、当院でも力を入れるように努めています。最近のNICU入院児では、30%前後が先天性心疾患を持つ新生児となっています。

また、心臓病の診療では、先天性心疾患に対する手術は年間60～90件、心カテーテル検査は年間90～130件施行しており、バルーンカテーテルによる血管拡張術やコイル塞栓術などの経皮的カテーテル治療も年間20～30件行っています。日々の診療も、心エコーやCT、MRIを用い、患者にとってより非侵襲的なフォローを心掛けています。

胎児期を含め、心臓病を疑ったら、まずは当院へ相談して頂ければ幸いです。

今年も宜しく願い申し上げます。

※胎児エコーは、火曜日の午後・完全予約制で承ります。



■心臓血管外科

主任部長 山田 和紀

新年、明けましておめでとうございます。昨年からのコロナ禍という、これまで私たちが経験したことのないような異様な環境の中、今後の見通しも不明なままの不安な年明けとなりました。

先生方も、感染対策に日々何かと心を砕いておられることと推察いたします。

当院におきましても、当科の入院患者さん、特に術後の患者さんでは、COVID19感染がそのまま重大な結果に直結する可能性が高く、感染予防には最大限の注意を払っております。このような状況下ではありますが、先生方のご支援のお陰をもちまして、昨年は350件以上の手術を行うことができました。またこれまでと同様に、平日の通常診療時間は勿論、夜間や休日にも院内に必ず心臓血管外科医が待機して、急患にも常に迅速に対応できる体制を維持しながら、出生直後の新生児から90歳以上の超高齢者まで、幅広く対応しております。

しかし全国的な状況を鑑みれば、今後いつ手術数を制限しなければならない事態になってもおかしくありません。そうならないよう祈るばかりですが、もしそうなったとしても、できる限りの努力と工夫をして、先生方にご迷惑をおかけすることのないようにしたいと考えております。

これからも、循環器内科や小児循環器科、放射線科との緊密な連携のもとに、より安全でより確実であることは勿論のこと、早期の社会復帰・日常生活への復帰を目指し、それぞれの患者さんにとって最良の治療が行われるよう、日々研鑽に努めてまいりますので、今年も昨年に引き続きご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【外来担当医師一覧】

氏名	役職	専門分野	外来受付時間
望月高明	顧問	心臓血管外科領域全般	月・金 8:30～11:30 水 12:30～16:30
山田和紀	主任部長	心臓血管外科領域全般(特に小児)	月・金 12:30～16:30
古川智邦	部長	心臓血管外科領域全般(特に成人心臓・胸部大動脈)	水 8:30～11:30 木 8:30～11:30 12:30～16:30
望月慎吾	医長	心臓血管外科領域全般(特に腹部大動脈・末梢血管)	月・火 8:30～11:30



(前列中央：山田主任部長)

あけましておめでとうございます。

平素よりご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年は、COVID-19の影響で、例年はない対応を迫られるなかで、日常診療や分娩を行ってまいりました。1月から11月までを振り返ります。

婦人科分野では、手術は約120例で、内訳はグラフ(右図)のとおりです。良性疾患に対応していますが、特色として、子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術を行っております。

根治術ではありませんが、術後の回復が早く、過多月経等の治療には良い方法と考えます。また、器質性月経困難症の管理も行っています。過多月経による貧血や月経困難症などでお困りの方はご紹介くだされば幸いです。

産科分野では、分娩は約300例でした。当院の分娩取り扱い件数は、2018年をピークに、減少に転じています。社会情勢を反映している部分が大きく、一件一件の重要性がより高まっていると感じます。

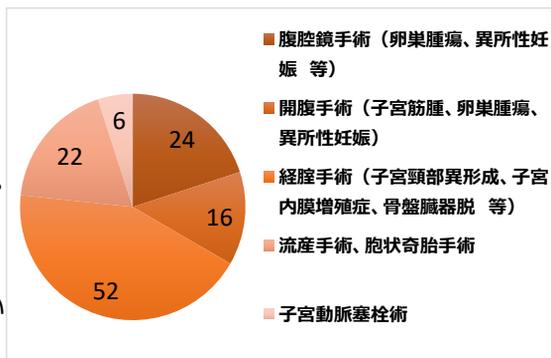


地域周産期センターとして、小児科の協力のもと、早産や胎児心疾患合併妊娠に対応しており、母体搬送の受け入れは26例でした。

可能な限りお断りすることのないよう努力しております。また、合併症妊娠のなかでは、耐糖能異常を有する妊婦の管理に力をいれています。これらの方は、将来的な糖尿病の発症リスクも上昇するため、分娩後も生涯にわたるフォローアップが必要とされており、地域の内科の先生方にもご協力をお願いする機会が増えております。

女性の健康、次世代の健康のため、貢献して参ります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



【図】当院の婦人科手術内訳 (2020.01~11)

■整形外科

明けましておめでとうございます。

当科では23年前の整形外科開設以来、上肢疾患、とりわけ手ならびに肘関節疾患にフォーカスを当てて診療を行ってまいりましたが、おかげをもちまして、これまで1万例を越える手・肘関節疾患の手術を施行し、微力ながら地域医療に貢献することができました。

貴重な症例の御紹介をいただきました各病院、クリニックの先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本年も引き続き手外科・肘関節外科を中心とした上肢の外科で「いま求められている最高の医療」を患者さんに提供できるよう努めていく所存です。



【左から、石橋・蜂須賀・木森】

上肢の骨関節・血管神経外傷はもとより、離断整骨軟骨炎や内側側副靭帯の損傷に代表される野球肘や手関節のスポーツ障害、骨関節の変性疾患、関節リウマチ、絞扼性神経障害、先天異常など、悪性腫瘍を除くあらゆる上肢疾患に専門的な治療を行っておりますので、御紹介の程、宜しく願い致します。

また、治療に際しての病診連携で要望事項がございましたらお聞かせ頂ければ幸いです。できる限りの対応を行ってまいります。

これから寒さが一段と厳しくなり、新型コロナ感染のさらなる拡がりが見られますが、先生方にはくれぐれも御自愛ください。



【リハビリスタッフ一同】

平素よりご高配を賜り、また多くの患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。

お陰様で当科の昨年手術件数は概ね例年通りで大きく落ち込むことはありませんでした。

年間約400件の手術の内訳ですが、その多くは甲状腺の手術で約200例となっています。甲状腺の手術では気管や食道、喉頭、反回神経、頸動静脈等の重要臓器の温存や再建を心がけ、根治性を追求するだけでなく患者のQOLを重視し手術を行っています。日頃の診療中にふと触れた頸部のしこりや、画像検査で遭遇した甲状腺の腫瘍影など、気になる患者さんがおられましたらお気軽にご紹介下さい。

地域連携室を窓口、平日の午前中であれば曜日を問わず対応させていただきます。

さらに、上部および下部の消化器疾患や胆石・ヘルニア・痔疾患等の症例も広く行っております。

とくに、循環器疾患や腎機能低下のある症例を多く手がけており、そのような患者さんの周術期管理に慣れていることが当院の特徴です。急性期の胆嚢炎や虫垂炎・イレウスなどの鏡視下手術などの緊急手術にも対応しておりますので迷わずご連絡下さい。

また、術後短期での退院が難しい高齢の患者さんなどは、必要に応じて院内の地域包括活用し自宅退院していただけます。医療連携の基本は医療スタッフ同士の信頼関係であると認識し、これまで以上に地域医療に貢献できるように努力して参ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



※外科外来の受付は、11：00までです。木曜日のみ、午後14:00まで受け付けております。

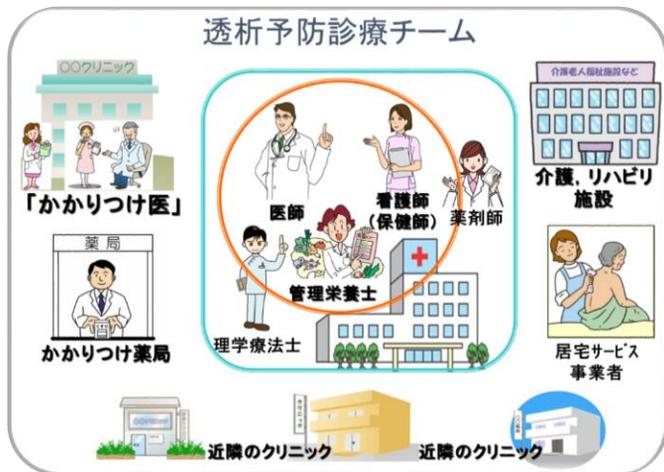
■ 腎疾患部

主任部長 川西 秀樹

如何なる腎不全・臓器不全にも対応するとの基本方針のもと、その時々新しい技術を導入しています。腎疾患治療と慢性腎不全症例の透析導入とその合併症の治療、急性腎不全治療が中心となり、外科医、腎臓内科医が連携して診療に当たっています。

- 1. 早期腎疾患治療**：検尿異常精査、さらに腎生検を行い、その結果に基づいた薬物療法を行います。
- 2. 保存期腎不全（CKD）治療**：薬物療法、食事療法、生活指導を基本とし、末期腎不全への進行を抑えます。また腎臓病教室を開催し、患者教育に力を入れています。特に透析予防診療チームの考え方の下、医療連携を積極的に活用しています（図参照）。
- 3. 末期腎不全治療**：血液透析と腹膜透析の両者を行っています。患者様の病態、生活に合った療法選択を行います。更に、必要な患者様には在宅血液透析も積極的に選択されます。また末期腎不全期より、腎移植治療の説明を行い、関連施設に紹介させていただきます。
- 4. 急性腎不全（AKI）治療**：持続的血液浄化療法を主にICU治療を基本とします。そのため24時間治療可能な体制となっています。
- 5. 透析血管外科**：バスキュラーアクセス増設、経皮的血管形成術を行います。
- 6. 下肢末梢動脈疾患**：2018年の診療報酬改定にて下肢末梢動脈疾患指導管理加算が収載されましたが、放射線科・血管外科・皮膚科と連携し、積極的に透析患者下肢病変への治療を行っています。
- 7. 連携医療**：土谷総合病院では上記のCKD・AKI治療を主に行っていますが、透析患者様が安定後の維持透析療法は、中島土谷クリニックまたは大町土谷クリニックにて加療します。また長期療養が必要な方は、阿品土谷病院に入院していただき加療させていただきます。

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



【図】保存期腎不全（CKD）治療における連携

新年あけましておめでとうございます。

当科は呼吸器感染症、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群など扱う疾患は非常に幅広く、病因も多岐にわたるため非常に知識や経験を要する領域です。

当院では特に循環器系疾患や腎疾患を合併症として有する患者さんが多く、投薬のみでコントロールできるような軽症例から在宅酸素や在宅NPPVを必要とする症例まで、多数の患者さんを診療させていただいております。

呼吸器感染症例も外来では急性上気道炎などの軽症例から、入院では重症肺炎や免疫抑制剤内服等に起因する日和見感染症例等まで診断治療しております。

総合病院における呼吸器内科として他科との連携をしながら地域の医療に貢献できますよう頑張っています。

また、当科では現在呼吸器内科医一人体制で診療を行っておりますので、気管支鏡、肺生検が必要な肺癌症例や、画像診断で肺癌が疑われる場合には、近隣の呼吸器内科・外科診療が可能な施設へ紹介をさせていただいており、病診連携もとりながら、患者さんにとってよりよい医療を提供していきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いたします。



■消化器内科

2020年は新型コロナウイルス感染症に振り回された年でした。いえ今でも苦戦を強いられています。

その感染不安によるがん検診の受診控えが懸念されています。緊急事態宣言下においては、がん検診が中断・延期され、宣言解除後、再開されたものの、前年と比較し受診者数は減少しています。2018年にがん死亡した人は373,584人、部位別では多い順に肺、大腸、胃、膵臓、肝臓でした。2～5位は消化器です。

2020年のがん統計予測でもこの順位に変更はありませんでした。(国立がん研究センターがん情報サービス)

そこで、先生方に3つお願いがあります。

その①:通院患者さんが、がん検診を受診されているか確認してください。

その②:未受診者には検診をすすめてください。

そして要二次検査となった場合、絶対にスルーしないようご指導お願いします。

私事ですが、8年前に大腸ポリープ切除後、便潜血検査逐年受診していた私、昨年初めて便潜血陽性に・・。

ドキドキしながら内視鏡検査を受けたら、またまたポリープ発見、即切除してもらいました。「便潜血検査は鋭い！」と感動しました。「便潜血陽性」—自施設で内視鏡検査が不可能な場合は、当院地域医療連携室に予約をしていただければ幸いです。

その③:糖尿病、肥満、大酒家には、腹部超音波検査を考慮ください。

肥満、糖尿病、大量飲酒は、「膵がん」「肝がん(特に非B非C)」共通の危険因子です。自施設での検査が難しい場合は、消化管は田村・寺崎、胆膵は石丸、肝臓は荒滝がスタンバイしております。

内視鏡、エコー、CT、MRIなどの検査から適切な治療へ、当院で不可能な治療は連携施設へスムーズにつなげてゆきます。気軽に相談、ご紹介ください。

2021年—

先生方の患者さんが、消化器進行がんで悲しい思いをすることがないようお力になれば幸いです。

今年もどうぞよろしくお願申し上げます。

おうちで『肝臓病教室』

(Zoomによるオンライン開催)

ご自宅のパソコンやスマートフォン、タブレットでご視聴いただけます。参加費無料(通信費は除く)

2021年1月25日(月)

14:30～15:30

「肝臓病の運動療法～みんなでつごうサルコペニア～」

講師：理学療法士 麻生 萌乃

【申し込み締切】2021年1月15日
下記いずれかの方法でお申込み下さい。

①QRコード 申込フォームに記入し送信してください

②パソコンから参加申し込みをされる方
<https://forms.gle/CH1446nGZZd1vkPA>
上記のURLにアクセスしていただき
申込フォームに記入し送信してください

※お申込みいただいたメールアドレスに当日(1月18日)と後日(1月25日)ZoomミーティングURLをEメールから送信いたしますのでPCからのメールを受信できる状態にしておく必要があります。

問い合わせ先:医療法人あかね会士谷総合病院
北林南オーストラリアン 館前 北井・香本
TEL.082-243-9191(14:00-17:00)

※巻末の『教室案内』をご参照ください。

循環器内科通信 (No.2)

心不全治療薬について

地域医療連携室長 (循環器内科 部長) 為清 博道

平素より当院へのご支援を賜り、誠にありがとうございます。今回は心不全治療薬の話題です。左室収縮能の低下した心不全(HFrEF)患者の治療と致しましては、ベータ遮断薬といわゆるRAS系阻害薬 (アンギオテンシン変換酵素阻害薬、アンギオテンシンII受容体拮抗薬、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬) が柱となります。

これらを、できる限り高用量で投与し、適量の利尿剤にて管理することが標準治療とされております。(図1)

これらに加えて、欧米のガイドラインにて推奨されている二つの薬が、最近日本でも使用可能となっております。洞結節に作用して心拍数を抑制するイバブラジンと自前の心不全治療薬とも言えるナトリウム利尿ペプチドの作用を増強するサクビトリルバルサルタンです。

また、糖尿病治療薬のSGLT2阻害剤であるダパグリフロジンの心不全への適応拡大が承認されるなど、心不全治療に新たな展開が見られております。

増加していく心不全患者を支えていくために、地域の先生方のご協力が益々増々必要となっております。

コロナ禍ではございますが、感染対策を施行の上、これまで以上に情報交換をさせていただき、地域医療連携をより深めていきたいと考えておりますので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

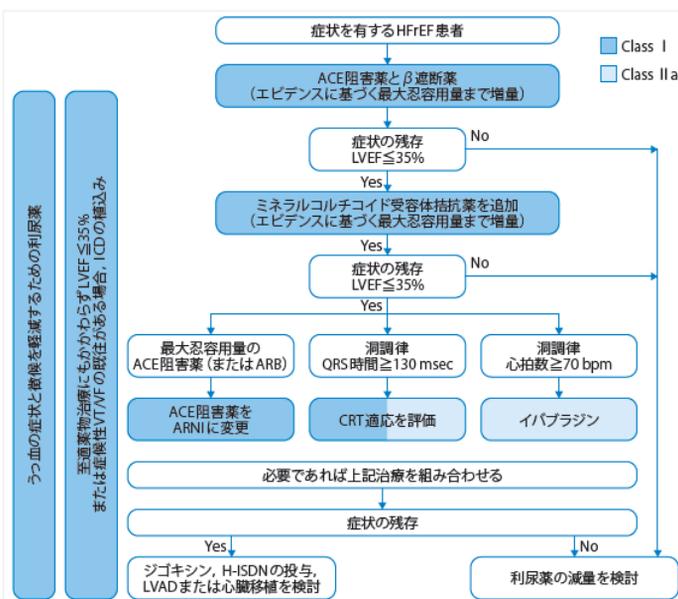


図1 欧州心臓病学会 (ESC) 心不全診療ガイドライン 2016 における HFrEF の治療アルゴリズム
 CRT:心臓再同期療法 H-ISDN:ヒドラルジン・硝酸イソソルビド LVAD:左心補助装置
 ICD:植込み型除細動器 VT/VF:心室頻拍/心室細動

【循環器内科 外来担当】

	区分	月	火	水	木	金
午前	一般 初診	為清	渡	三宅	沖本	山根
	一般 再診	山根/小栗	為清	林	渡	沖本/岡本
	不整脈 初診		尾木	藤原	尾木	村岡
	不整脈 再診		村岡/尾木	藤原	村岡	
午後	紹介	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

※令和3年2月から、木曜日の一般初診外来は、三宅医師に変更となります。

認定看護師による ミニコーナー

寒い時期を元気に過ごすために

慢性心不全看護認定看護師
戸部 和美

寒暖差が大きくなるこの季節、体調管理が難しくなってくるかと思えます。風邪や肺炎などの感染症は心不全症状を悪化させる原因の一つです。手洗い・うがいは引き続き丁寧に行う事が重要です。

また、高齢患者さんは、体温調整機能の低下や身体の筋肉や関節が動きにくくなってくるので、手や足先を温めておくことも大切です。靴下を重ね履きする事は、場合によっては足先の血流を悪くさせてしまうこともある為、しっかり温めて締め付けない程度で靴下をはくことをおすすめします。

また、室内を歩く時は滑り止めのついた靴下やスリッパを使用し、滑って転倒しないよう注意しましょう。

* インフルエンザや肺炎球菌の予防接種も忘れずに受けましょう *



教室案内



◆おうちで「肝臓病教室」(Zoomによるオンライン開催)

日時 : 1月25日(月) 14:30~15:30

テーマ : 「肝臓病の運動療法～みんなで防ごうサルコペニア～」

講師 : 理学療法士

参加費 : 無料(通信費は除く)



ご自宅のパソコンやスマートフォン、タブレットでご視聴いただけます。

下記のいずれかの方法でお申し込みください。

①QRコード(⇒)

申し込みフォームに記入し送信してください。

②パソコンから参加申し込みをされる方

<http://forms.gle/CfYg46hQ2ZZd1vkPA>

上記のURLにアクセスしていただき、申し込みフォームに記入し送信してください。



※申し込み締切 : 1月15日(金)

※お申込みいただきましたメールアドレスに後日(1月18日と当日) Zoomミーティング URLを「kansuke@tsuchiya-hp.jp」から送信いたしますので、PCからのメールを迷惑メール設定されている方は解除してください。

<問い合わせ先> 北外来ナースステーション 担当 : 北井・谷本

TEL : 082-243-9191(代) (14:00~17:00)

お知らせ

◆新型コロナウイルス流行による面会制限について

新型コロナウイルスの流行に伴い、**面会は原則禁止**とさせていただきます。ただし、入・退院時の送迎や医師が必要と認めた場合(症状が重篤な場合など)は、短時間での面会を許可させていただきます。

入院患者様への預かり物を持参された方は、1階『総合案内』前の内線電話で入院病棟に電話していただきますと、病棟看護師が受け取りにまいります。

対応できる時間 : 月～土曜日(8:30~17:30)

ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆地域包括ケア病棟利用をお考えの方へ

こんな時、ご相談ください(どなたからのご相談でもお聞きします)

- 急性期治療(手術や内科療法など)を終えられた患者さまで、もうしばらく経過観察が必要な方や在宅生活へ向けて、環境準備やリハビリが必要な方
- 家族が在宅介護できない期間の入院(冠婚葬祭や入院治療、介護疲れなど)
- 施設への入居待機中の方(最長60日まで)

医療機関関係者の方へ

脳神経外科医・精神科医はおりませんので、ご注意ください。